

# 水滸語法雜記（1）

～方向補語〈开来／开去〉

鈴木 誠

## 1. はじめに

補語として用いられる〈开〉は、〈开来／开去〉の形でも用いられることから、方向補語に分類されることが多い。現代中国語では〈开〉に比べ〈开来／开去〉の使用にはやや制限があるようで、《現代汉语八百词》では〈开去〉を取り上げていない。小論では『水滸傳』に見られる複合方向補語〈开来／开去〉を取り上げその用法について分析する。なお、『水滸傳』における用例は1回～40回をその対象範囲とした<sup>1)</sup>。また、方向補語〈开〉については稿を改めて論ずる予定である。

## 2. 〈开来〉

『水滸傳』1回～40回に見られる複合方向補語〈开来〉は3例あった。

01. 宋江扯开被来，却见这套带头正在那妇人胸前拖下来（21回）  
（宋江が布団を引きはがすと、帯がその婦人の胸の前から垂れ下がっているのが見えた）
02. 微闪开眼来看那蛇时（1回）  
（わずかに目を開けてその蛇を見ると）
03. 一个引着武松离了单身房里，来到前面一个去处，推开房门来，里面干干净净的床帐，两边都是新安排的桌凳什物（28回）  
（一人は武松を案内し独房を離れて、前方のある場所まで来て、部屋扉を押し開けてやって来ると、中には清潔な寝台と帳、両側には新たに手配されたテーブルや腰かけなどがあった）

それぞれの用例について検討する。

用例01.の〈扯开来〉には〈来〉が落ちた形式も多く見られる。

04. 把枷只一扭，折做两半个，扯开封皮，将来撇在水里，赶将下桥来  
(30回)

(枷を一ねじりし二つに折り，封印を引きはがし，それを水の中に捨てると，橋を駆け下りていった)

用例 02. の〈闪开来〉にも〈来〉のない〈闪开〉が存在する。

05. 林冲方才闪开眼看时，认得是鲁智深 (9回)

(林冲がちょうど目を開けて見ると，魯智深であることがわかった)

用例 02. の〈闪开眼来看〉と用例 05. の〈闪开眼看〉の表現はよく似ており，〈来〉の有無によって意味の違いは感じられない。用例 02. の〈来〉は方向補語としてではなく，2つの動詞フレーズ〈闪开眼〉と〈看那蛇〉を繋ぐ働きをしているとも解釈できよう。

つぎに用例 03. の〈来〉には動詞「来る」の意味が感じられ，この用例は2つの動詞フレーズ〈推开房门〉と〈来〉からなる連動文としても解釈が可能であろう。つぎに挙げる例は連動文である。

06. 将金子放下，却把那纸书展开来灯下看时，上面写着晁盖并许多事务 (21回)

(金子を置き，その手紙を広げて灯火の下に来て見ると，そこには晁蓋のことやさまざまなことが書いてあった)

『水滸傳』で〈开来〉は3例検出されたものの，方向補語としてはほとんど用いられていないことが分かる。

### 3. 〈开去〉

『水滸傳』1回～40回に見られる複合方向補語〈开去〉は12例あった。〈开去〉には〈开来〉と同様，その構造が方向補語なのか，連動文なのか判断に迷う例がいくつか存在した。

07. 那后槽……却待开门，被武松就势推开去，抢入来把这后槽匹头揪住（31回）  
 （その馬丁が…扉を開けようとしたところ、あいにく武松は勢いよく押し開けて入り、踏み込んで来てこの馬丁を真正面からつかまえた）
08. 怎敌得李逵水牛般气力，直推将开去，不能勾拢身（38回）  
 （李逵の水牛のような力にはかなわず、李逵がひたすらその人を押しつけて行こうとするので、近づくことができなかった）

用例 07. の〈推开〉は「(扉などを) 押して開ける」の意味であり、また用例 08. の〈推开〉は「押しのける (相手を押してスペースを開ける)」の意味である。これら 2 つの用例中の〈去〉には動詞としての意味「行く」が読み取れる。しかし〈开来〉とは異なり、複合方向補語の間に目的語をはさむことなく、〈开〉と〈去〉は直接結びついている。

〈开去〉は「(船を) 漕ぐ、泳ぐ」といった表現でもっとも多く用いられる。

09. 树根头拿了一把捩揪，只顾盪，早盪将开去，望湖泊里来（15回）  
 （樹の根元から櫂を 1 本つかむと、ひたすら漕いで、早くも漕ぎ出すと湖を目指してやって来た）
10. 四人离了酒店，再下了船，把酒肉都放在船舱里，解了缆索，径捩将开去，一直投阮小二家来（15回）  
 （4人は酒屋を離れまた船に乗り、酒と肴を船室に置き櫂を解いて、まっすぐ漕いでゆき、ただ阮小二の家を目指して来た）
11. 何涛见了吃一惊，急跳起身来时，却待奔上岸，只见那只船忽地捩将开去（19回）  
 （何涛はそれを見ると驚き、慌てて身を躍らせ岸に上がろうとしたところ、ふと見ると乗っていた船は急に岸から離れていった）
12. 却说那梢公摇开船去，离得江岸远了（37回）  
 （さて船頭は船を漕ぎ出し、岸から遠く離れた）

13. 漁人看见，尽吃一惊，却都去解了缆，把船撑开去了（38回）  
（漁師たちはそれを見るとみな驚き，纜を解いて，船を出した）
14. 张顺再跳下水里，赴将开去（38回）  
（張順は再び水に飛び込み，泳いで行った）

用例 09.～用例 13. はすべて「船を漕ぐ」の例である。〈擘〉〈盪〉〈搪〉はすべて「船を漕ぐ」の意味である。〈开去〉は、「漕ぐ」あるいは「泳ぐ」動作をすることにより船や身体が岸から遠ざかることを表している。なお、「船を漕ぐ」という表現に単純方向補語〈开〉を用いるのはつぎの1例のみである。

15. 一个公人便将水火棍搥开了船（37回）  
（一人の役人は棒で岸をついて船を出した）

用例 15. の〈搥〉は用例 13. の〈撑〉と同じく、「（棒などで岸をついて）船を出す」の意である。

〈开去〉は「離れる」や「広がる」といった意味を表し，以下のような表現にも用いられる。

16. 你若怕打，快走开去（30回）  
（殴られたくなかったら，早くどけ）
17. 那篮雪梨四分五落，滚了开去（24回）  
（その籠の雪梨は散り散りばらばらに転がっていった）

〈开去〉は「離れる」「広がる」の意味からさらに派生し、「はっきりする」や「明らかになる」といった意味を表す。

18. 为是恩人前日老汉请在楼上吃酒，员外误听人报，引领庄客来闹了街坊，后来散了，人都有些疑心，说开去（4回）  
（先日恩人様を私が二階に招きお酒をご馳走していたところ，員外

様が人の知らせを誤解し、作男たちを引き連れてご近所を騒がせた、その後引き払ったとはいえ、人々がやや疑いを持っていたので、言い訳をしたのです)

19. 但提起聚义一事，王伦便把闲话支吾开去（19回）

（話が義に集う一件になると、王倫は無駄話でごまかした）

用例 18. は言葉で釈明することにより、用例 19. は無駄話でごまかすことによって、事態の紛糾を打開したのである。この用法は《現代汉语八百词》1.d) の〈比喻清楚，开阔〉に相当するものと考えられる。なお、〈说开去〉は〈说开〉の形でも多く用いられる。

20. 县里有那一等和宋江好的相交之人，都替宋江去张三处说开（22回）

（県庁で宋江と親しく交際していた人たちは、みな宋江のために張三のところへ行き申し開きをした）

#### 4. おわりに

以上、『水滸傳』における複合方向補語〈开来／开去〉について用例を挙げて分析した。『水滸傳』ではどちらの用例も検出できたものの、〈开来〉が3例のみだったのに対し、〈开去〉は12例も検出され圧倒的に優勢であった。〈开去〉は「離れる」「広がる」という意味で用いられるだけでなく、〈说开去〉「釈明する」や〈支吾开去〉「ごまかす」といった派生的な意味にも用いられていた。

一方、現代中国語について《趋向补语通释》は〈开来〉と〈开去〉のどちらも取り上げながら、〈开去〉について〈实际语言中较少使用〉と述べている。また前出の《現代汉语八百词》は〈开去〉を項目として収録していない。よって『水滸傳』における〈开去〉の優勢は現代中国語とは異なる状況を示している。この点は現代中国語における複合方向補語〈开来〉と〈开去〉の関係を通時的な側面から考察する上で何らかの手がかりを提供するのではないかと思う。

**【注】**

- 1) 『水滸傳』のテキストには《(容興堂本)水滸傳》全二冊 上海古籍出版社 1988年を使用し、文字表記を簡体字に改めた。

**【参考文献】**

- 《趋向补语通释》刘月华主编 北京语言文化大学出版社 1998年  
《现代汉语八百词(增订本)》吕叔湘主编 商务印书馆出版社 1999年